



反応のいいナチュラルな音で  
予定したよりも自分好みの音に

### Yutaka Suzuki's Power strip

Design & production, Text by

## 鈴木 裕

#### ●この電源タップの狙い

エネルギー感にムラがなく、コントラストのしっかりした、反応のいい音を目指した。同時に「リーズナブル」を意識しつつ、メジャーなメーカーの電源プラグ、ケーブル、コンセントを中心に組み合わせている。ただし電源系は、振動/電磁波問題が大きいので、その対策としてアクセサリ類を投入。ある程度のところまでは予測できるが、実際にどういう音になるのかにも興味があった。

●音のポイントとアクセサリ対策  
入口から出口へとパーツを吟味  
電磁波などにも対策を施した

「エネルギー感にムラがなく、コントラストのしっかりした、反応のいい音」ということで、まず入り口はオヤイデの電源プラグAP・004を選択。端正な音色感と音像の輪郭の明確な表現を狙っている。アーマードシリーズになって電磁波対策もされており、従来の製品群よりも静かで安定した音を持っている。

アクロリンクの電源ケーブル7N・PC4030 Legend a C Bは、音の色彩感や品の良さが魅力だが、同時に繊細感と低音のエネルギー感の両立を期待できるケーブルだ。D.U.C.C.の導体の採用やシールド構造など、絶対的には安くはないが、手間のかかったケーブルだ。

フルテック GTX・D(G)は細部までよく考えられたコンセン



#### 作者による自己評価

エネルギー感にムラがなく、反応のいいナチュラルな音。低音感にけっこう良質で音像の立体感もいいし、自分好みの音になってしまった。高域のコントラストをもう少し強くする予定だったが、

ト。金メッキ仕様のものにしたのは値段を抑えるためもあるが、アンダントテラルゴのTMD処理によつて情報量を確保できるのではないかと考えた(オヤイデのプラグにも処理している)。

問題はコンセント自体は振動が多い部分なので、まずアルミ削り出しのベースとカーボンのコンセントカバーという組み合わせのオヤイデWPC・Zを選んだ。また電源タップ内では電源ケーブルのシールドを剥いているので、その部分は電磁波に対して無防備だ。その対策として、オヤイデの電磁波吸収シートをボックスの中に貼っている。実際に貼りつけてケーブルを響かせてみると、振動に対しても一定の効果があるようだ。

最後に振動、電磁波、静電気のコントロールとして、フルテック NCF Booster Bracketに頼った。ケーブル自体を除いて、単体のパーツとしては最も高

#### 鈴木製作所のタップをこう聴いた

評価 / 福田雅光

高級木材花梨の34mm厚。剛性の高いベースだ。アクロリンクの極太ケーブルであるから作るのは苦勞もしたのでは。透明度が高くコントラストのしっかりした解像力を備えた真面目な音である。S/Nも高い。もっとDレンジがとれてもいいと思うが、これはプラグの影響かな。でも中音のレスポンスは優秀だ。難題の低音弦楽器の旋律の動きも表現しているのは立派。締まりや低音のコントラストは多少甘い、しかし、ヴォーカルのずっさりした伸びがいいね。高音は繊細に倍音成分まで美しく表現されている。ジーン・ロードウィックは理想に近い。フルテックのNCFプレースの効果も出ている。音質は澄んで美しい。解像度のしっかり性能は合格。

価だが、その威力は本誌の試聴室でも自宅でも何回も確認している。以上を、電源タップを作る時に何回も使い回している花梨の木材に取りつけている。跳ね返りが強かったり、重たい電源ケーブルを差すと、電源タップ自体がひっくり返ってしまうことへの対策。製作で意外と苦勞したのはアクロリンクの電源ケーブルの外径が太く、タカチの固定ランプの内側の出っ張りを通らなかつたこと。これをリユーターで削り落とすのに苦勞した。